

JAEF REPORT

令和6年10月5日

年4回発行(1,4,7,10月)

(公財)日本自動車教育振興財団 活動報告

【目次】

- ◆ 令和6年度 自動車教育用教材の提供対象校・内容を決定
- ◆ 令和6年度 J A E F 研修会を開催
- ◆ 22道府県の研修会(58件)に講師を派遣

- ◆ 自動車技術講師派遣 紹介動画を制作、公開
- ◆ 自動車技術教育イベントを支援

令和6年度 自動車教育用教材の提供対象校・内容を決定 ……8月21日

技術教育

財団は8月21日に開催した審査委員会(加藤秀次 委員長)にて、令和6年度の技術教育支援事業として、計130の高等学校へ自動車教育用教材を提供することを決定した。本年度は、電動車両への理解を促進するために自動車・機械系のみならず、電気・電子系の学科も活用できる新教材「EVミニカート・キット」を導入。これに伴い、提供対象15府県(右欄参照)の代表校長への個別アプローチなど、従来以上に告知強化及び応募促進に努めた。130校への提供は当活動を開始した平成3年度以降最も多く、昨年度(110校)に続き過去最多を更新。府県別では、5県で過去最多、3県で過去最多タイとなった。

公募対象は、15府県の全国工業高等学校長協会、全国総合学科高等学校長協会、全国自動車教育研究会に加盟する313校。公募期間は従来より半月ほど延長した6月1日から7月16日とし、対象の全府県から計130校の応募があった。

教材メニューは計29品目を設定。提供教材別では、「分解組立用エンジン(汎用126cc)」の40校が最多で、これに次いだのが新教材「EVミニカート・キット」の29校。同教材については、想定を遥かに超える38校からの応募があったため、選考基準を基に提供希望校の優先付けを実施した(応募校は第1から第3希望の教材を申請しているため、何れかの希望教材を提供)。

審査委員会で上述の提供校の優先付け等も含め、厳正な選考・検討を行った結果、全応募校に対し要望内の教材を提供することとなった。

各校への教材納入は、9月から12月にかけて実施する。また、10月より各府県の自動車教育推進協議会の協力を得て、提供校への目録贈呈式ならびに教育懇談会を実施する予定。昨年度参加者より好評を得た自動車販売会社での贈呈式・教育懇談会については、今年度は6県での開催を予定している。

尚、平成3年からの累計提供校数は計2,534校となる。



▲分解組立用汎用エンジン



▲EVミニカート・キット

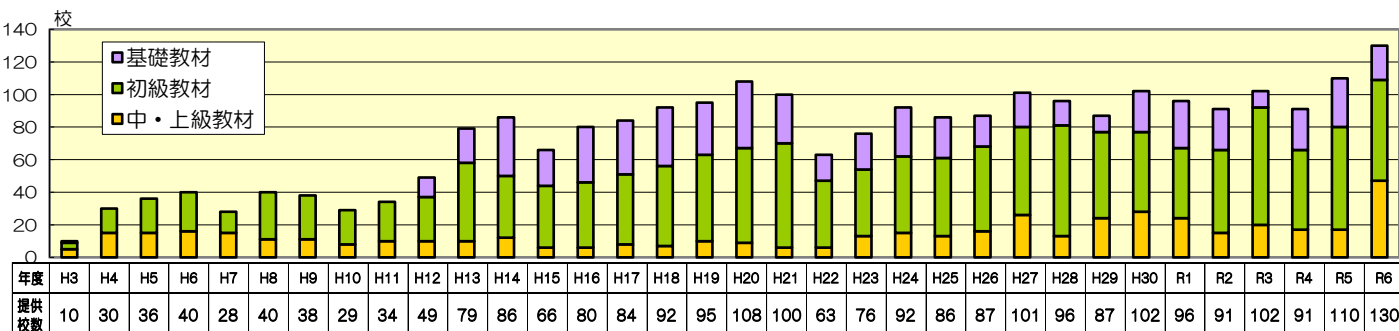
【令和6年度公募対象府県及び応募(＝提供)校数】

※公募地域 15府県：313校

青森県(5)、岩手県(6)、宮城県(7)、福島県(10)
茨城県(8)、静岡県(16)、愛知県(17)、岐阜県(9)
三重県(8)、滋賀県(4)、京都府(2)、大阪府(14)
兵庫県(18)、奈良県(3)、和歌山県(3)

合計130校に提供

【年度別提供校推移】



INFORMATION

10～12月予定

- 令和6年度 教材贈呈式を実施
- 25都道府県の研修会(63件)に講師を派遣
- 各部会、委員会を開催

10月～12月

10月～12月

9月下旬～10月下旬

令和6年度 JAEF 研修会を開催

財団は、全国の高等学校の先生方を対象としたJAEF研修会を計3回開催した。第1回は「交通安全教育手法」、第2回は「軽自動車の歴史と技術開発」、そして第3回は「交通反則通告制度」をテーマに実施。各回の実施内容、参加者の反響は以下の通り。

<第1回：「交通安全教育手法」>

実施日	7月30日（火）
場所	「交通教育センターもてぎ」（栃木県茂木町）
参加者	37名（工業科系:14、社会科系:5、理科系:10、その他:8）
実施内容	<p>(1)講演：「生徒指導に資する交通安全教育手法」について 講師：モビリティリゾートもてぎ(株) 交通教育センターもてぎ 主幹 島倉勝氏</p> <p>講演内容）「安全運転の極意」として①ルールを守ること ②事故発生メカニズムを理解することが重要であるとの説明があった。シミュレーターによる危険予測トレーニングにより、人によって危険認知に差があることを学んだ。</p> <p>(2)実習：危険な状況を安全に体験することにより安全運転のポイントを学んだ</p>
参加者の声	<p>「人によって危険のラインが違うことがはっきり分かった。そのことを生徒にもしっかり伝えたいと思う。」 「公道上では体験できないことを体験できてよかった。」等</p>



<第2回：「軽自動車の歴史と技術開発」>

実施日	8月7日（水）
場所	スズキ株式会社（静岡県浜松市・湖西市）
参加者	35名（工業科系:7、社会科系:13、理科系9、その他:6）
実施内容	<p>(1)講演①「軽自動車の歴史と技術開発」 講師：スズキ株式会社 商品企画本部 部長 河村恭博氏 同 ②「インドでのバイオガス事業の紹介」 講師：スズキ株式会社 渉外広報本部 部長 小島洋一氏</p> <p>質疑応答では、せっかくの機会にという参加された先生方の説教的な姿勢により、9名の方から質問があり、複数の質問をされる方も多く、質疑応答時間は40分に及び、大いに盛り上がった。</p>

・・・ 7月（第1回）～8月（第2回、第3回）

研修

（第2回：「軽自動車の歴史と技術開発」の続き）

参加者の声	「スズキがどんな経営戦略のもと、消費者ニーズを満たしていこうと開発されているかがよくわかった。」「牛糞からバイオガスを取り出す仕組みについて詳しく説明していただき、地歴公民のすべての授業に生かすことができそうで、とても面白かった。」等
実施内容	<p>(2)施設見学 ①スズキ歴史館 自由見学ではなく、2班に分かれて社員の方から丁寧に説明をいただいた。 ②湖西工場 国内最大の生産台数を誇る湖西工場での生産現場を見学。生産ラインの間近まで案内、説明をいただいた。</p>
参加者の声	「ポイントを解説いただきわかりやすかった。」「説明をいただき、スズキがどういう会社かがよく分かった」「工場の様子が見られるのは、本当に楽しい勉強になる。生徒に見せたい。」「スズキの技術力を再確認できた。説明や案内が大変わかりやすかった。」等



<第3回：「交通反則通告制度」>

実施日	8月9日（金）
場所	日本自動車会館（東京都港区）
参加者	21名（工業科系:8、社会科系:2、理科系:3、その他:8）
講演	<p>①「自転車 16歳以上対象 交通反則通告制度（青切符）」について ②「『交通安全教育ガイドライン』の方向性」 講師：特定非営利活動法人 自転車活用推進研究会 理事長 小林成基氏</p> <p>内容）制度導入の背景や、制度導入後の具体的な取締り対象について、最新情報を説明。官民連携による事故低減に向けた教育ガイドラインの策定内容や教育方法について、検討内容を解説。</p>
参加者の声	「青切符について厳格な適用があると思っていたので意外だった。厳格な適用が必要だと思う。」等

各回とも参加者の声にあるように、いずれも大変高い評価であった。

本研修会開催にあたりご協力いただいた各企業、講師の方々には、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

（右列に続く）

22道府県の研修会(58件)に講師を派遣

・・・7～9月

研修

令和6年度7～9月の講師派遣実績は、開催件数58件（前年同期差 ±0件）、キャンセルは6件（同 +3件）であった。また参加者は計14,078名（同 +1,272名）と大幅に増加し、1件あたりでも243名（同 +22名）で前年を上回った。

今年度の開催件数は9月までの累計で260件となった。過去最多となる年間の実施計画380件に対する進捗率は約7割まで達し、順調に推移している。

7～9月に派遣した全58件の分野別内訳は以下の通り。

分野	件数	対象
1) 自動車技術	17	主に工業系の生徒
2) 交通安全	38	社会科系及び生徒指導担当の先生並びに生徒
3) 環境・交通技術	3	

尚、研修会メニュー別実績件数は以下の通り。

1) 自動車技術：計17件

最新技術：生徒対象	16
整備技術：教員対象	1

実施校からは、「空調管理をされた教室内でいくら良い授業を展開したとしても、車を目の前にして受ける授業には到底かなわない。30℃を超える屋外であっても生徒の目の輝きが違う。」「次年度も利用したい。」など、数多くの好意的な評価をいただいた。



▲兵庫県立姫路工業高等学校での講師派遣（自動車技術）



▲宮城県加美農業高等学校での講師派遣（自動車技術）

2) 交通安全：計38件

ヘルメット着用の重要性	6
夜間の交通安全対策	6
ドライバー・自転車・歩行者から見た交通安全	23
自転車事故のリスクと損害保険の役割	3

受講した学校の先生からは、「話が整理されており、重要な部分は最後にまとめてもう一度話す等、わかりやすかった。動画もあり、交通安全の重要性をより理解することができた。生徒も集中して話を聞いていた。」と、講習内容について高い評価が得られた。

また、きめ細かな事前打ち合わせや、学校の状況や環境を踏まえた工夫についても高く評価していただいた。



▲秋田県立西目高等学校・対面での講師派遣（交通安全）

3) 環境・交通技術：計3件

カーボンニュートラル(CN)社会の未来	2
自動運転技術が拓く未来と人との協調	1

受講した学校の先生からは、「最先端の知見から講演いただき、生徒からの評価も高かった。」「CNの話だけでなく、最新の自動車技術、交通事故での死亡者を無くすためのメーカーの様々な取り組みを紹介していただき、とてもおもしろかった。」等高い評価が寄せられた。



▲長野県下伊那農業高等学校での講師派遣（交通技術）

講師派遣にご協力いただいた関係団体・企業の皆様に紙面をお借りして深謝申し上げます。

自動車技術講師派遣 紹介動画を制作、公開

・・・8月9日、9月20日

普及啓発

財団は、今年度「自動車技術教育支援活動の更なる強化」を重点取組としている。その柱の一つである「自動車技術に関する講師派遣の活用促進」を図るべく、同講師派遣活動の紹介動画を制作、ウェブサイトにて公開した。

同講師派遣では、自動車メーカー・自動車販売会社の担当者が講師役を務め、生徒は各テーマに関連する技術への理解を深めつつ、最新モデルや機能に直接触れることから、クルマへの関心も高める効果が期待できる。

これまで年間20～30件ほど利用されてきたが、いずれもたいへん高い評価を得ており、今後より多くの高等学校に認知・活用いただくことを狙いとしている。

同講師派遣の告知については、これまで各校に送付したFaxや当財団HPなど文字情報中心のツールに限られていた。それらでは伝えきれなかった、実際の研修会の様子、参加生徒・主催した先生らの反応をよりリアルに紹介している内容とした。

当動画制作にあたり、今年6月に神奈川県立向の岡工業高等学校、同7月には宮城県加美農業高等学校で実際の研修会の模様を取材した。

まず8/9に向の岡工業高校の模様を纏めた動画を公開し、続いて9/20に加美農業高校での取材内容も追加したコンテンツとしてウェブサイトに掲載した。

尚、当動画は一般社団法人 学びのイノベーション・プラットフォーム（以下、PLIJ）が運営するウェブシステム「PLIJ STEAM Learning Community」※でも公開している。

当動画制作・公開にご協力いただいた関係団体・企業の皆様に紙面をお借りして深謝申し上げます。



▲ 8/9に第一弾として、神奈川県立向の岡工業高等学校での研修会の様子を纏めた動画を公開



▲ 9/20には、宮城県加美農業高等学校の模様も追加編集した動画を公開

※ PLIJ：産学官公教が連携しながらSTEAM教育を推進する組織。「PLIJ STEAM Learning Community」では、STEAM教育や探究型の学びに活用できる動画、工場見学や出前授業などの情報を掲載。

* 当動画は以下URL 或いはQRコードよりご覧になれます。

https://jaef.or.jp/industrial-teacher_pr/index.html



自動車技術教育イベントを支援

・・・8月1日～3日

財団運営

財団は、自動車技術教育や交通社会教育の推進に関わる高等学校の取組みを支援している。8月1日から3日に「全国ソーラーラジコンカーコンテスト in 白山」が石川県白山市で開催された。今年で31回を迎えるこの大会では、全国から71チームが参加し、自作のソーラーラジコンカーの性能と操作技術を競い合う学業成果発表の場として、炎天下で熱戦が繰り広げられた。

決勝に残ったのは、岡山県立笠岡工業高校から参戦した4チーム。互いに手の内を知り尽くしていることから、たいへん熾烈な争いが繰り広げられた結果、同校の『O1』チームが見事に優勝を果たした。

特別賞の「日本自動車教育振興財団賞」は、3年連続で新潟県立上越総合技術高校が受賞し、当コンテストを後援した石川県自動車教育推進協議会を代表して、松田等 石川県自動車販売店協会専務理事よりトロフィー、賞状及び副賞が贈呈された。



▲ 全国ソーラーラジコンカーコンテスト参加者全体写真